公表	事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人　恩賜財団　済生会支部兵庫県済生会　兵庫県済生会児童発達支援事業所なないろ			
○保護者評価実施期間	令和7年12月3日		～	令和7年12月19日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	30名	（回答者数）	25名
○従業者評価実施期間	令和7年12月19日		～	令和7年12月24日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6名	（回答者数）	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所と病院が連携し一人一人フォローできる体制	定期的に事業所と病院間で会議を行い、医師、看護師、心理士、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーが参加して情報共有をしています。必要に応じて、理学療法士や言語聴覚士から助言をもらうなど、それぞれ専門職と連携しながら、健康面、運動面、生活面など多方面から包括的にサポートができる体制を整えています	発達の成長段階を見極め、対応方法を検討しながら、よりよい支援が提供できるようにしていく
2	個々に対してのアセスメントと支援	1対１の対応のため、発達段階、特性、興味関心に合わせて内容やペースを調整し、小さな変化に気付きやすく、「できた」の経験を見逃さず言葉や表情で伝え自信に繋げている	・個別場面でできたことを家庭や集団でも活かせるよう環境や関わり方を工夫していく ・アセスメントを行い、得意なこと好きなこと見極め、興味関心を持ちながら「やりたい」「やってみたい」気持ちを育んでいく
3	保護者と連絡を取り合い繋がりを深く持っていることで、日頃の様子の共通理解の体制が整っている	・日々の情報共有を大事にしながら送迎時や連絡帳を通して、支援中の様子や小さな成長を伝えている ・毎回のやりとりがあることで困りごとを早めに相談しやすい環境を整えている	面談やフィードバックの機会を確保し「どんな関りでできたか」「気持ちの変化」を伝えていく。その場で伝えきれない時は連絡帳も活用しながら成長を伝えていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者全体の交流の機会が少ない	今年度より年2回座談会(保護者会)を開催し、職員と保護者の交流及び保護者同士の繋がり形成を図った	保護者のニーズを踏まえて計画的に必要な情報を提供できる機会を設けると共に日々の子育ての悩みなどを共感できる場を提供することで、一人で悩まない環境作りを目指していく
2	個別支援であるため集団生活での経験ができない	・個別支援の事業であるため集団の機会を設けることが難しいが一人一人の関りを大切にしている ・同じ時間を利用している他児と関わりが持てるようにしている	同じ時間の利用児童同士の交流ができるようにすることで、子ども２人、大人２人の小集団を設けお友達を交えてのやりとりが出来るようにしていく
3			